めずらこども園「優秀園実践提案研究会」開催レポート

2021 年 2 月 27 日（土）、2019 年度「ソニー幼児教育支援プログラム」で「優秀園」を受賞しためずらこども園による、「優秀園実践提案研究会」を開催しました。新型コロナウィルス感染防止のため Zoom ウェビナーによるオンラインで実施いたしました。南は沖縄県から北は北海道までの認定こども園・幼稚園・保育所・小学校・中学校・大学等の教育・保育関係者から異業種の方も含めて約 140 名（端末数）の参加がありました。

以下にめずらこども園による開催レポートを掲載します。

発表会概要

1. 日時：令和 3 年 2 月 27 日（土）　9：30～11：30
2. 主催：社会福祉法人芽豆羅の里 幼保連携型認定こども園 めずらこども園
3. 共催：公益財団法人 ソニー教育財団
4. 主題：「科学する心を育てる」
   「み～つけた！」を深める探究活動
5. プログラム
   1）開会式・論文発表　9：30～10：05
   2）協議会（質疑応答）　10：05～10：10
   3）記念講演　10：20～11：20
      演題：「科学する心を育てる保育を考える」
      講師：玉川大学教授　大豆生田啓友氏
   4）閉会式　11：25～11：30

実践発表

研究主題：『み～つけた！』を深める探究活動

「み～つけた！」
の心躍る瞬間

本園は、子どもが自ら周りの環境に「素直に感じる心」で関わり、興味・関心を広げ、様々な体験活動や遊びの中で不思議を感じ、探究サイクルを繰り返し、経験を重ねて、自然への親しみや愛着を深めていくと考える。さらに、友達との協働的な学びにより「科学する心」が育ち合うと思われる。

2019 年度は、日常の遊びの中で子どもたちが、日々不思議と遭遇し、好奇心をもち、不思議な世界に向かい合い、「見る」「触る「なんだろう」「どうしてかな？」と、探究心が生まれ、さらに、意欲的に環境に関わり、輝く目で「発見」をする姿に多く出会った。このような子どもの姿から、「み～つけた！」の心躍る瞬間に着目した。

〈0 歳児〉

まだ、言葉で表現できないため子どもが不思議を感じている時は、少し離れて見守りを行ったり、子どもと同じ目線になって子どもの興味を探ったり、思いに応えられるように関わった。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。
「ソニー幼児教育支援プログラム　めずらこども園　優秀園実践提案研究会（C）公益財団法人 ソニー教育財団 https://www.sony-ef.or.jp/ 」

〈1 歳児〉
「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」への育ちを大切にし、子どもの発見や行動に共感することにより、今後の探究の芽生えが育つよう関わった。

〈2 歳児〉
興味をもったことを図鑑や絵本で見て、自分の思いをもつようになり、ほかの子どもと興味を重ねることで好奇心が育まれ、さまざまなことへと繋がり子どもたちの主体的な行動力が探究心への芽吹きと感じている。

〈3 歳児〉
雨どいを使って目的の場所まで水を流すため、子ども同士で意見を出し合い、イメージしたことを実際にやっていくと上手くいかないことが多かった。しかし、試行錯誤を繰り返し、工夫を重ねながら自分たちがイメージする完成に近づき、喜びを感じながら「造りて」になる、この様子の中に子どもたちの「科学する心」が育ってきたと考える。

〈4 歳児〉
「色」に関する探究を通して、子どもたちは①「発見・疑問」②「実践・試行錯誤」③「結果の予想」④「結果・分かったこと」という４つの段階を様々な方向に回りながら学んでおり、一つの疑問に対する結果を導き出すと、また新たな発見や疑問が次々に生まれ、探究サイクルによる試行錯誤を何度も繰り返す中で「科学する心」が育まれていると考える。

〈5 歳児〉
遊びの中で出てきた発見や疑問に対して試行錯誤し、学びを獲得し、さらなる興味や探究心が出てくる探究サイクルを経験しながら、科学の本質である「影はどうしてできるのか？」という問いに対しての発見、「影を作るには、光と光をバリアするものが必要」ということに気づくことができた。子どもたちは、探究サイクルを繰り返し経験し、発想を生み出してきている。このような光景を創り出して探究を深める姿に「科学する心」が育っていると考える。

協議会（質疑応答）

事前に、参加者に受賞論文及び発表資料を読んでいただき、予め質問を受け付けるとともに、当日もチャットで質問を受け付けた。以下の質問について、担当者より具体事例を通して返答した。

Ｑ１：全職員への理解と取り組みになるまでのご苦労と、そこまでたどり着いた要因を教えていただきたい。

Ａ： 2009 年度より「ソニー幼児教育支援プログラム」に応募させていただき、５歳児を中心に実践論文としてまとめてきました。しかし、2019 年度は、「０歳児からすでに科学する心が芽生え始めているのでは」という思いから、全園児共通で子どもたちの発見「み～つけた！」や面白がっていることをメモに残し、写真に撮るなど記録に残してきました。また、「いつでも支援のできる職員のチーム体制作り」を課題とし、職員会議などの場で「科学する心」について何度も話し合い、週案

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。
「ソニー幼児教育支援プログラム　めずらこども園　優秀園実践提案研究会（C）公益財団法人 ソニー教育財団 https://www.sony-ef.or.jp/ 」

など日々の記録に子どもの姿を詳しく記入することによって、子どもの姿を共有し、保育者一人一人の意識の向上へと繋げました。同時に保育者も「科学する心」に子どもたちとともに共感を深めて来ました。

Ｑ２：シャボン玉を始めるときにどのように展開しているのかを伺いたい。

Ａ： 日頃から、子どもが「やりたい！」「おもしろい！」と感じられるように、一人ひとりの興味・関心に合わせて、環境を構成しています。シャボン玉も、やりたいという子どもと一緒に環境を整え、一緒にシャボン玉を始めました。子どものシャボン玉ができた時は「すごいね！」「できたね！」とその形の現象に子どもと喜び、認めることでさらなる意欲や自信へと繋げています。また、上手くいかない時、保育者は子どもの思いになり、共にシャボン玉作りをやり続けるなどの寄り添う関わりを大切にしています。そうすることで、周りの子どもたちの興味・関心にも広がり、自分なりに遊びを創意工夫し、探究する心が生まれていると考えます。

記念講演　大豆生田啓友氏/玉川大学教授

本園の事例や「保育の質向上と『科学する心』」をテーマにお話いただいた。

めずらこども園の論文を読み、以下のように感じた。

- 「なんだろう？」と思うことが小さいころから保障されている
- 子どもと大人が面白がり、ワクワクできる環境である
- 実体験をベースにしながら、体験と興味関心を知的好奇心につなげている
- 子どもたちの心が動いて不思議と思ったことを予測して、遊びの中で勝手に実験している
- 共有するプロセスを大事にしている
- 「ものづくり」を通した STEAM 教育が行われている

STEAM 教育が小学校以上の教育で必要とされているが、「科学する心」を大事にしている保育は、STEAM 教育になっている。STEAM 教育とは、知る（探究）とつくる（創造）のサイクルを生み出す、分野横断的な学び、研究者のように探究し、アーティストやエンジニアのように作ることである。また、子どもが本気で探究しつくりたいということに大人が付き合っていくことが大事である。

今の日本は、保育の大きな変革期にある。社会から乳幼児期の保育が注目されることは、戦後一度も無かった。少しずつ時代は、保育の「質」に変わり、メディアでも段々と取り上げられるようになってきた。今年一年コロナ禍で保育者の苦労も多かったと思うが、大変な中でも多くの園が子ども主体の保育に変わっていこうとしていた。感染症とは、人類の歴史の中で、負の歴史でもあるが同時にそこから新たなチャンスを生み出してきた歴史でもあると言われている。

保育の質が高いということは、保育者が「保育が楽しい！」、子どもたちが「園に行くことが楽しくて仕方がない」ということである。そのような園は、保護者を巻き込んでいるので、保護者も面白くなり園のよき理解者となる。また、子どもたちが本気でワクワクしていることに、保育者も一緒に面白がることは、子どもたちの豊かな学びとなり保育者も保護者も幸せになれる。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。
「ソニー幼児教育支援プログラム　めずらこども園　優秀園実践提案研究会（C）公益財団法人 ソニー教育財団 https://www.sony-ef.or.jp/ 」

保育の質を高めている園の特徴

- 子ども主体の遊び（協同的な活動）を重視している
- 保育者が、子どもの姿を「振り返り」、「語り合う」風土がある
- 職員同士の関係性（同僚性）が良好である
- ドキュメンテーションなどで、子どもや保育の姿を保護者に伝えるなど、家庭や地域に開かれている
- 上記の方向性は、園長や副園長、主任などのリーダーおよび中堅層などが中心となって、保育を変えてきた経緯がある

最後にまとめとして、次のことを述べられた。

「科学する心」を大切にする保育は、「世界ってこんなに魅力にあふれている」ことを子どもと大人が一緒に、探究する営み。

それは、「こんなにステキな世界を次の世代に、そして、永遠に残したい」と思うことにつながる、〈持続可能な社会〉形成のための大切な営みなのです。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。
「ソニー幼児教育支援プログラム　めずらこども園　優秀園実践提案研究会（C）公益財団法人 ソニー教育財団 https://www.sony-ef.or.jp/ 」